



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ヤマハ発動機(株)

5

— 経営理念と新興国船外機事業 —

第1部：企業の現況

1-1. 全社の事業ポートフォリオ

10

2014年度（12月期）時点の同社は、連結ベースの総売上高が1兆5,212億円（海外売上高比率89.3%）、当期純利益は約684億円（当期利益率約4.5%）で、2009年度のリーマンショック前の状態にほぼ回復し、なお売上・利益ともに上昇基調である（業績推移については付属資料1・2・3を参照）。製品分野は大きく分けて4つあり、下記表1のようになっている。

15

表1：ヤマハ発動機の商品カテゴリー

事業区分	内容	売上高比率 (2014年12月期)
二輪	オートバイ、スクーター、および部品	64.3 %
マリン	船外機、水上オートバイ等のウォータービークル、プレジャーボート、プール、漁船・和船	18.2 %
特機	四輪バギー、レクリエーション・オフハイウェイ・ビークル（ROV:オフロード専用バギー）、ゴルフカート、スノーモービル、発電機、除雪機、汎用エンジン（灌漑用ポンプ等）	9.3 %
産業用機械・ロボット	サーフェスマウンター（回路基板等への電子部品自動装填装置）、産業用ロボット、電動車いす	2.6 %
その他	2010年以降：自動車用エンジン、自動車用コンポーネント、電動アシスト自転車、産業用無人ヘリコプター（2009年以前は、これらに産業用機械・ロボットが含まれていた）	5.6 %

20

25

本ケースは、慶應義塾大学ビジネススクール教授 岡田正大によって、公表資料を元に作成された。本ケースは経営の巧拙を論じたものではなく、ケース討論用の教材として作成された。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 岡田正大（2015年7月作成）